

平成24年度の学校経営計画 各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

*下線は今年度新たな取り組み

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできた、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。 (言語活動の充実を盛り込む)	教務課	・新学習指導要領の理解を図り、新教育課程における数学・理科以外の指導計画を作成する。(数学・理科の手直しも) ・新教育課程の実施に伴う習熟度別や少人数の授業実施科目について検討・決定をする。 ・言語活動の充実をめざした授業の実践例を集め、紹介するとともに校内での実践に取り組む。	・H25年度の指導計画がすべて作成できる。 ・習熟度別授業と少人数授業の実施科目が決定する。 ・各教科の授業見学で方法や目的・目標をはっきりさせた実践ができる。	・年間指導計画は年内を目標としている。 ・3年普通科英語の校内名称以外は案ができた。 ・6月授業見学は授業実践はできたが、他教科見学と振り返りに課題がある。	B	・年間指導計画については順調に進められた。 ・3年普通科の英語については単位数変更の可能性にはっきりと結論が出てからになる。 ・11月授業見学では他教科の見学数が飛躍的に伸びた。言語活動についても成果が「とてもあった」と「まずまずあった」で約8割。	B	B
	進路課	・教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。 ・国公立個別試験の問題研究を継続して行う。	・教科内で伝達講習の会を開く。 ・岡山大学入試問題の解答・解説の冊子が作成できる。教科内で研究する。	・夏休み中、5教科の先生が研修講座に参加。レポートを提出していただいた。 ・冊子が完成した。解答解説を作る段階で教員間で議論できた。 ・進路検討(研修)会で、進路資料の読み方等をプレゼンテーションし、研修した。	A	・夏休み中に7名の先生方に研修参加していただき、レポート(A4 1枚)を教科内で回覧した。 ・岡大入試問題解答冊子を3年生希望者に個人配布し、さらに1,2年生の教室に配置した。 ・12月検討会でも、新課程に関わる教員研修を実施した。	B	
	総務企画課	小中高の授業連携のしくみを構築する。	相互に授業見学ができる。	・6月に高梁中学校と授業連携に向けて担当者同士が話をすることができた。高梁小学校については、管理職から了解を得ることができた。秋以降、先生方に授業見学のご案内をする。	B	本校から市内の幼稚園、小学校、中学校5校へ計12名の教員が出向き、授業見学をすることができた。また、4つの中学校で英語、数学、理科、家庭科の出前授業を行った。本校への授業見学は中学校から1名であり、来年度はさらに相互の授業見学を推進していきたい。	B	
	文化課	図書館利用状況の実態を把握し、年間利用ゼロの生徒を減らす取り組みをする。	年間通じて本を1冊も借りない生徒がいない。	・各学年の利用状況は把握できた。授業で本を紹介したり、課題のなかに読書を入れたりして、読書の機会を意識的に作るように努める。貸出しの少なかった2年次生では、貸出数が増えつつある。	B	各学年の利用状況を把握して、授業で本を紹介したり、課題の中に読書を入れたりして、読書の機会を意識的に作るように努めた。また、文化課以外の先生方とも情報を共有して読書の機会を増やしていった。その結果、貸出ゼロの人数が一昨年・昨年に比べ大幅に減少した。(2010年:29% 2011年:15% 2012年:4%) 今後は、継続して本を読む習慣を身につけさせる工夫をしていきたい。	B	
	国語科	授業の中で、グループ学習を取り入れ、生徒相互の話し合いの機会や発表の機会を増やして言語活動の充実をはかり、様々な問題を解決する能力を養う。	グループ学習を、年に10回程度実施する。	・単元のまとめや、読解などで、グループ学習を取り入れている。生徒は積極的に取り組んでいる。今後は、わかりやすく「伝える」「説明する」姿勢を養ったり、他者の意見を受けて発言する力をつける活動の工夫をしていきたい。	B	グループ学習を、年に10回以上実施した。生徒は、積極的に取り組んでいた。グループ内で協力して問題を解決する姿勢が見られ、質の高い意見も出てくるようになった。今後は、より自主的に発言する力や論理的に述べる力をつける工夫をしていきたい。	B	
	地歴科	言語力・思考力の育成のために、社会的事象の意味・意義を正しく解釈させ、それに基づいた自己の考えを論述する力を身に付けさせる。そのために各考査において論述問題を出題し、各学期に1回程度、問題内容検討のための会を持つ。	各考査ごとに、工夫した論述問題を出題できる。	・各科目で試行的な論述問題を定期考査で出題できており、生徒の解答もおおむね満足できる状況である。しかし、科目間で問題の共有や検討を行っていないことが課題である。	B	各教科とも定期考査に論述問題を出題できた。それにともない、論理的に考え、記述する力を養うことができた。問題内容の検討はできておらず、出題の仕方・内容などについて多角的・多面的な検討は行えなかった。	B	
	数学科	言語活動の充実のために、授業中の生徒の発表の機会を増やし、数学用語の解説や公式・定理の活用方法および問題の解法などを説明させることなどにより、生徒の学力の向上を図る。	進研模試の数学の平均点全国偏差値1・2年52以上。3年49以上	・7月進研模試平均偏差値1年49.1 2年52.8 3年X54.6,Y53.9,Z50.5	B	生徒の発表や、説明の機会は意識して増やした。11月進研模試平均偏差値1年48.1 2年51.7 3年10月X52.4,Y51.1,Z47.5と2,3年についてはほぼ達成、1年については達成基準が高すぎたようである。	B	
	理科	実験実習に際しては、事後報告レポートの作成に先立ち、結果整理・考察について班内で議論させる。さらに、クラス全体で発表・質疑応答する機会を設けることで、プレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を図る。	1ヶ月に3回以上、生徒どうしで議論させる授業を実施する。	実験書の記入・提出の際に班員どうしコミュニケーションをとらせた。また、用語などを適切に表現できるように指導をした。全ての班の実験結果を黒板に記入させ、結果について議論させるようにした。	B	3年次生では、後半演習に入ったため実験とはいかなかったが、それまでは全学年において実験時に班員どうしコミュニケーションをとることができた。また、クラス全体で発表というのは少ししかできなかったが、全ての班の実験結果を黒板に記入させ、結果について議論させることができた。ただ、実験以外の授業の中での取り組みは今後の課題である。	B	
保体科	自主性を重んじる指導の中で思考・判断の力を向上させ、個人の考えを発する機会を均一にし、自らの意見を発する力、他者の意見を聞く力を身につけさせる。	・個人ノートの記述欄が毎回3行以上の記録であればA ・表記内容の充実に着目する。	個人ノートの記述は3行以上の者が増えてきている感触がある。授業内でミーティングの機会を設けた際も割と活発な意見交換ができていく。今後は互いの考えを活動	B	自ら考えて行動できているかの判断基準のひとつとして個人ノートが大きな役割を果たしていることは明確だが、計画、実行、反省のサイクルを更に有効・一貫性のあるものにしていく	B		

			に反映できているかを考えさせたい。		必要がある。		
	芸術科	・名品を鑑賞し、その印象や構成、背景等を味わい発表させる。 ・作品の意図やテーマ・および自己評価を発表させ、他者にその批評をさせる。	单元ごとに意見発表の場を設ける。	美・書は自作作品の批評会を行った。特に家政科は活発で広がりのある意見発表ができていた。音楽は歌詞についての討論会などを行った。討論の後で歌う際により深みのある演奏になった。	B	相互鑑賞の時間はどの科目の授業でも確保することができたが、名品鑑賞については、特に1単位ものの授業については、深く掘り下げる時間を確保することが難しい。特に1単位ものの授業では実践の時間の確保で精一杯であるのが現状である。	B
	英語科	生徒の学力にあった発展的言語活動の知識を年次の枠を越えて共有し、各教員が自分の授業で実践できる。	毎回の授業のなかに音読、または発信の活動が必ず入る。	毎回ではないが、各授業の中で様々な種類の音読活動、または発信の活動が取り入れられている。	B	昨年度までのパワーアップ事業で実践してきたことを継続、発展させることができた。今後はさらに活動のバリエーションを充実させる必要がある。(例えば主語をすべてIに変えて音読など)	B
	家政科	ロールプレイやディベートなどの授業展開を通じて生徒主体の授業を展開する。	各教員が1回以上行い、生徒主体の授業が展開できる。	・ロールプレイなどの授業も全員ではないができた。 ・各授業で、生徒主体の授業を意識して授業展開ができています。	B	・ロールプレイなどの生徒主体の授業を、各授業で意識をして展開することができた。 ・生徒の反応もよく充実した授業展開ができた。	A
② 学習習慣の確立	進路課	・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。教員は生徒の状態を常時把握し、適切な指導ができる。 ・各教科の学習習慣の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 ・『進路のてびき』を発行する。	・年間を通じて、実態の調査が行える。 ・家庭学習の時間が3時間を超える生徒の割合が6割を超える。 ・学年での調整役になる。 ・今年度中に発行できる。	・4,6,9,11月と実態調査を行った。(3年は4,6のみ) ・11月(3年は6月)調査で、普通科は3時間以上の割合が 3年68%, 2年62%, 1年72%。 家政科は平均学習時間が 3年2.3時間, 2年1.9時間, 1年1.8時間。 ・各年次で模試の反省会を行い、各教科の現状を共通認識し、課題発見をした。 ・『進路のてびき』を9月初めに発行した。 ・7/29～31に普通科1,2年生全員対象に学習合宿を行った。	B	・学習実態調査は、単に調査するだけでなく事前に学習計画を作成させてから実施した。 ・学習時間3時間以上の生徒の割合は、どの年次も6割を超えた。一方、2時間未満の生徒が1割弱いるので、この人数を減らしたい。 ・12月末に、1,2年次それぞれで「ミニ検討会」を行い、生徒の現状の学習成績、学習状況と進路志望の共通認識するとともに指導の方向性について議論した。 ・『進路の手引き』は3年生の出願時のマニュアルとして機能している。 ・学習合宿について今年度の反省と課題(自主学習時の生徒からの質問への対応、食事・入浴時の誘導・指導、各責任者をはっきりさせておく等)を議論した。	B
	国語科	授業の小テストに向けての取り組みの他、授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課する。	定期的に宿題を課する。小テストの合格率7割以上、課題の提出率7割以上。	・達成基準にほぼ到達してきているが、小テストが合格出来ない生徒や課題の提出期限が守れない生徒が固定化してきている。個別指導などを継続していきたい。	B	達成基準にほぼ到達できているが、小テストの不合格者や課題の提出期限が守れない生徒が固定化してきている。今後も、個別指導を継続していきたい。	B
	地歴科	基礎・基本を理解させるとともに、学習習慣の確立を図るため、隔週ごとに課題を配付し取り組ませる。また、3科(国・数・英)の出題量とのバランスも考えて課題を出す。	隔週ごとに課題を出せたか。出題量は適切であったか。提出状況は良好であったか。	・課題は学校行事や他科目とのバランスを考慮して、2週連続や月に2回といった形で柔軟に出題できている。提出状況も良好であるが、一部生徒に課題がある。	B	・模試の時期を中心に適量の課題を課すことができた。課題提出状況の確認や事後指導について教科内で統一の方針を打ち出しておらず、来年度の課題である。	B
	数学科	学習習慣の確立に向けて、火曜日から金曜日は毎日、1・2年次生は数学毎日課題を提出させ、3年次生は予習・復習などの課題の点検を行う。また、数学週末課題を出して週明けに提出させ、週末の学習時間を確保させる。	普通科生徒の9割以上が、数学毎日課題(1・2年次生)や予習・復習などの課題(3年次生)を提出し、数学の家庭学習を毎日1時間以上確保する。	提出状況は8割5分程度、学習時間については1,2年次生は1時間を超えている。	C	毎日課題の提出状況は約86%程度だが、期日を守った提出は7割程度と低い。今後の指導を考えたい。 家庭学習時間については、1,2年とも1時間以上確保できている。(実態調査による)	B
	理科	定期的な課題(当日課題、週末課題)の実施と期限厳守での提出を促す。 課題の提出状況一覧表を、少なくとも週1度は提示し、状況が良くない生徒に関しては、随時面談を行い指導する。	提出率90%以上…A 提出率75%以上…B 提出率75%以下…C	提出状況は良好(基準A)である。一覧表の提示もできている。しかし、期日に遅れる者も少なくなく、期限厳守という点ではなお努力を要する。提出状況の悪い生徒とも随時面談が概ねできている。	B	提出期限において、前半遅れるものが多かったが、一覧表の提示や期限厳守といった教員サイドの姿勢などにより後半は遅れる生徒の数が減ってきた。また、提出状況も良好(基準A)であり、学習習慣の確立に一定の成果があったといえる。ただ、一部には提出期限が守れない生徒もおり、根気よく指導していくことが必要である。	B
	英語科	家庭ですべき復習内容が明らかになるような復習小テストを定期的に行う。 音声教材付属の週末課題を利用し、家庭でも音読活動が可能な状況を与える。	小テスト不合格者の再提出率が9割を超える 週末課題提出率が 9割以上…A 8～9割…B 7割未満…C	・各年次で定期的に復習小テストを実施している。不合格者の再提出率はまだ9割に達していない。 ・週末課題については、1年次はほぼ全員提出できているが、年次が進むにつれて提出率が下がり、3年次は8割程度の状況である。	B	1年次:小テスト実施後の再提出率はほぼ10割。週末課題の提出日での提出率は7割程度。その後の指導でほぼ10割提出している。 2年次:復習テスト、毎日課題等を継続的に実施している。週末課題は提出日の提出率はC、遅れやその後の指導でBの状況である。 3年次:復習小テストを定期的に行い、週末課題も3種類のものから選ばせるような形で与えたが、提出率は目標に届かなかった。	B
	家政科	気持ちの良い「先言後礼」の挨拶の徹底をする。	「気持ちの良い先言後礼の挨拶を行うことができる」生徒アンケート75%以上。(昨年度42%)	・「先言後礼」の挨拶はできているが、気持ちの良い挨拶までは至っていない。	B	・「先言後礼」の挨拶を意識はしているが、学年が下になるにつれ、なかなか気持ちの良い挨拶までに至らなかった。 ・生徒アンケート「気持ちの良い先言後礼の挨拶を行うことができる」	B

					1年 32% 2年 41% 3年 61%		
	1年次	教科担任と学年次との連携を密にして指導にあたる。	教科担任と学年次との連携がとれ課題の提出状況が良い。	・夏課題（提出物の数：家政科20、普通科13）の提出状況を学年で把握し、未提出者の指導を学年全体で行った。	B	・冬課題（提出物の数：家政科10、普通科9）の提出状況を学年全体で把握し、未提出者の指導を学年で行った。提出状況下家政科94%、普通科96%となった。 ・家庭学習時間 4月 6月 9月 11月 1月 家政科 2.1 1.9 1.4 1.8 1.8 普通科 3.5 3.5 3.0 3.1 3.2	B
	2年次	家庭の理解・協力を得るため、年次通信の内容を工夫する。その際、生徒の日常生活がより伝わるように工夫する。教科担任とクラス担任との連携を密にして指導にあたる。	工夫した年次通信を5回以上発行した。教科担任とクラス担任との連携がとれ、課題の提出が良好だった。	・年次通信を定期的に発行し、家庭への情報発信は実施。内容の工夫が一層必要。長期休業中の課題提出を中心に、年次として取り組めた。	B	・年次通信は定期的に発行。学校生活の様子も伝えたが、内容の工夫が必要。冬課題の提出状況は全体的に向上した。	B
	3年次	年次通信の内容を工夫し、学習習慣を確立するための時期に応じた適切かつ必要な情報を保護者に発信することにより、保護者との積極的な連携を図る。	通知票発送とは別に年次通信を月1回発行できた。	通常の年次通信以外に、保護者用年次通信を必要に応じて4回発行した。しかし、月1回の目標には達していない。	B	保護者会等の内容を補うために、受験のシステムを中心に、通常の年次通信以外に、保護者用年次通信を発行したが、回数は4回にとどまり、月1回の目標には達しなかった。	B
③ 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動	教務課	生徒会や委員会と連携したLHR作り。(各課と連携して)	年間2回程度のLHR実施	・人権の縦割りLHR、後期に2回。	B	縦割りLHRの実施は、今後のLHR作りのよいステップとなった。関係の係との連携がもう少し早めにとれればよかった。	B
	生徒課	・委員会活動の充実を図る。委員長と執行部との面談を行う。執行部から各委員会へ活動内容を提案し、企画を実現させる。	・面談実施回数 ・1つ以上企画を実現させる。 ・アンケート調査結果 学校行事満足度87%以上A	・面接回数1回 ・企画実現0 ・アンケート調査 年度末調査実施	C	・面接回数2回 ・AGT活動(ボランティア活動) HR清掃、部活動清掃活動 ・学校行事満足度89%	A
	総務企画課	・オープンスクールで生徒が主体となった場面を提供するために、事前指導を充実させる。 ・「地域で育つ」視点から、栄町まちづくり事業等に協力する。	・アンケートによる生徒の満足度70%以上 ・イベントを10回以上実施する	・夏のオープンスクールでは生徒スタッフの事前指導を3回行った。前日もスタッフ全員を集め、校内清掃とリハーサルを行い、昨年度より生徒が主体となったオープンスクールを開催することができた。 ・栄町まちづくり事業は現在5回実施している。	B	・夏のオープンスクールでは、事前指導を分割して行うなど工夫を凝らした。ボランティアスタッフ92名の内、2年次生の中には昨年度のスタッフも多数おり、生徒の満足度が伺えた。しかし、中には自分の意志で動いてはいるものの主体となって積極的に関わることができにくい生徒も若干見られた。 ・栄町まちづくり事業は9回実施した。中でも11/24に開催した高校生イベントでは、ボランティアスタッフによる高校生カフェを初めて実施し、書道部、ダンス部、コーラス部などの部活動の発表とともに地域とのふれあいを深めることができた。	B
	厚生環境課	・美化に対する意識の高揚と自主的な活動を促すため、整理整頓の呼びかけ活動や学校周辺の清掃活動を行う。 ・地震を想定した避難訓練を実施し、生徒が自主的に危機回避できる様な心構えを養う。	・年間10回以上の清掃活動ができた。 ・地震を想定した避難訓練を計画し、年1回以上実施する。	・前期期間中に校内清掃を2回行った。後期には学校周辺の清掃活動を行う予定。 ・地震を想定した避難訓練は11月12日に計画している。	C	・学校周辺の清掃活動は3回実施した。10回以上の目標は達成できなかった。 ・地震を想定した避難訓練を11月12日に実施した。耐震工事のため、避難経路が制限されたが、けがもなく無事に終えることができた。	B
	家政科	地域との交流を充実させる。	「充実した地域との交流ができた」生徒アンケート80%以上	・「子どもフェスタ」など参加し地域とのふれあいに生徒が主体的に取り組めた。 ・全国産業教育フェアに向けて取り組んでいる。	B	・産業教育フェアや家政科展など様々な行事に意欲的に取り組むことができた。 ・生徒アンケートで「充実した地域との交流ができた」 1年 71% 2年 88% 3年 97%	A
	寄宿舎	・各寮内において、寮長、副寮長を中心とした「自主」「自律」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を月1回行えるような体制を確立する。	・各寮において反省会を9割以上行うことができる。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を9割以上行うことができる。	・反省会においては、各寮長を中心に毎週きちんと行うことができている。 ・寮長と舎監長との情報交換は9割以上はできているが、寮の情報はずべて寮長を通して行われているので副寮長との情報交換は今後の課題となる。	B	・各寮での反省会については、それぞれで定着し、毎週木曜日に行うことができた。それにより自分たちで整理整頓など「自主」「自律」的に取り組んでいる。ただ部屋によってはまだまだのところもあり今後の課題である。情報交換については寮長とは行うことができたが、副寮長とはなかなかできなかった。	B
④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	教務課	・申し合わせ事項(教務関係)の徹底と見直しをする。 ・管理システムの課題を情報係と共有し、連携しながら解決していく。	・申し合わせ事項の見直しを行い、その徹底ができる。 ・正確な処理、スムーズな運用が行われる。	・徹底についてはいま一つ。見直しは随時チェックし、後期に一度まとめをする。 ・評定平均一覧が出るようになった。教務関係の処理についてはまず順調である。	B	・申し合わせ事項の見直しは実行できたが、徹底についてはいま一つ。 ・運用2年目で不具合の回数は減少したが、解決すべき問題が生じた時は情報係と連携し取り組むことができた。また、成績処理マニュアルの正確性を高めることができた。	B
	生徒課	・課内の係会議の充実。分散会議で情報交換の徹底・効率化を図る。	・教員へのアンケート調査結果80%以上A	・係毎の小会議が増え、仕事の効率化がはかられた。課以外の情報交換不十分。	B	・学年対応、他の課との連携がまだ不十分。 ・マナー指導 75% ・情報の共有 67%	B

進路課	<ul style="list-style-type: none"> 各年次進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 定例の進路課会議を行い課題の発見と対策を検討し、共通理解をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路通信を各学年10回発行できる。 週1回の会議ができ、進路課としての共通認識のもと、年次主導の進路指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年:(8+8)号, 2年:(5+5)号, 3年:(10+1)号, 進路課通信:(16+14)号を発行済み。 11月までで18回の会議を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年:(10+8)号, 2年:(5+5)号, 3年:(10+1)号, 進路課通信:(23+14)号を発行済み。 1月までで22回の会議を実施した。基本的には、年次主導で行事等を運営できた。他年次の行事等にも参加できるようにしたい。 	A
総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> 文書や視聴覚機器を整理し保管場所を明らかにすることで情報の共有を図り、課内の仕事がより円滑に進むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報が整理でき、保管場所が明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務企画課所有の文書や視聴覚機器を整理し、保管場所を明確にすることができた。 各教科の所有する視聴覚機器を調べ、一覧表にして示すことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文書や視聴覚機器を整理し保管場所を明らかに示すことで、課内の仕事をよりスムーズに進めることができた。 	A
1年次団	<ul style="list-style-type: none"> 三年間で、生徒を鍛え育てるために必要な情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を育てるための種が蒔けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の学年配置がまとまっており、情報の共有がしやすくなっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月に1年次生の進路検討会を実施し、学年団で生徒の将来の志望を共有した。 学年団で気軽に会話できる雰囲気が出た。 	B
2年次団	<ul style="list-style-type: none"> 朝の打合わせ会で、生徒情報の交換を充実させる。 年次会議の効率化を図るため、1日前までの資料準備を徹底する。 実力検査や模擬試験の後小検討会を開き、生徒の力について共通認識をもち、全員で指導にあたることのできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会で十分な情報交換ができた。会議が1時間程度で収まった。 小検討会を適宜もつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた生徒の情報交換はできている。 1時間半程度の会議で収まっている。 実力試験や模擬試験の後、小検討会を開き年次全体としての共通認識はもっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた生徒の情報交換はできている。 概ね1時間半程度の会議に収まっている。 小検討会を数回を実施し、生徒の力に対する年次全体としての共通認識が持てた。 	A
3年次団	<ul style="list-style-type: none"> 進路課との連携を図り、外部から得た情報を年次団教員が共有できる体制作りを行うことにより、生徒の進路実現に組織的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路関係の来客や入試説明会で得た情報を、毎回の朝礼や担任会を通じて共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試関係の情報は、朝礼を通して必要があれば説明してもらおうとともに、フォルダーを作って入力してもらおうなど、ある程度情報共有ができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路関係の来客や入試説明会で得た情報を、朝礼や担任会を通じて共有することができた。また、担任会の記録を出席していない先生方に配付することにより、情報の共有ができ、進路実現に組織的に取り組むことができた。 	A
家政科	<ul style="list-style-type: none"> 家政科のPRを積極的に行う。 ホームページやブログ等の広報を積極的に行い、高梁高校のブログにおいて年間30回以上タイムリーにアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間30回以上タイムリーにアップできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度初めて家庭クラブ新聞「まつぼっくり」をカラーで拡大印刷し、校外に掲示することができた。 高梁高校のブログは現在12/22回家庭科でアップした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭クラブ新聞「まつぼっくり」の校外掲示は計画どおりできた。 高梁高校のブログは、後半はなかなかタイムリーにアップできなかった。 	B
事務室	<ul style="list-style-type: none"> 事務室内朝礼の充実を図るとともに職員朝礼で連絡・情報提供を行う。 証明書の発行などマニュアルを整備し、担当者不在でも迅速な対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡漏れを出さない。 対応マニュアルを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝礼での連絡・情報提供は、適宜行っている。事務室内朝礼は、伝達のみで終わることが多く、改善が必要である。 証明書発行マニュアルは、原案が作成できたところなので、今後活用していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 事務室内朝礼でも情報交換等を行うことにより、情報の共有ができるようになってきた。 マニュアル整備にあわせて証明書交付願の様式改正やHPの更新を行うことにより、迅速な対応ができるようになった。 	A